



発行所  
財団法人全日本仏教会  
東京都中央区築地  
三ノ木二丁目寺内  
電話54-0323  
発行人 栗本俊道  
編集者 高橋忠雄  
印刷所 栄昌堂

# 予算大綱と事業案を決定

## 理事会開催さる

全日仏は、いよいよ四月から新  
発足才二年度を迎えて本格的な活  
動の時期に入るが、評議員会に提  
出する来年度事業計画案並に予算  
案等について、その大綱を東京本  
部に於て決定する理事会が去る一  
月二十四日開催された。

定刻、二十一名（うち委任状七  
通）の出席で会議は成立、渡辺理  
事長の挨拶の後議事に入り、次の  
通り協議決定され午後四時半散会  
した。

1. 昭和三十三年度事業計画に関  
する件  
これについては、「寄附行為」  
に規定された事業各項について本  
年度の具体的事業を計画した事務  
当局の原案が提出され、各理事よ  
り出された意見を参照すること、  
して基本的に原案が承認された。  
来年度の事業として、各種専門委  
員会の活発な運用、地方組織強化  
世界仏教徒会議への参加等の活動  
をはじめ注目されるものが多い。

2. 昭和三十三年度予算編成に関  
する件  
これについては、活動強化の裏  
付けとして左の通り編成大綱の承  
認を得た。

- (1) 総額は歳入出約五百万円
- (2) 宗派負担金のうち寺院敷割負  
担金を一ヶ寺につき五円増し  
三十五円とする。
- (3) 理事選出団体の特別負担を理  
事一名につき一万円とする。  
団体平等割（含宗派）負担金  
を二千円増し、一率三千円と  
する。
- (4) 基本負担額を最低二千円とす  
る。（従つて一団体負担金は  
最低五千円となる）
- (5) 評議員会開催の件  
これは三月下旬開催と決定。  
才六回全日本仏教徒会議開催  
の件
- (6) 東京浅草寺で開催を決定。  
六月十四、十五、十六日  
セイロン大水害救援運動実施  
を決定
- (7) 聖徳宗並に東日本詠歌連盟加  
盟申込の件を承認。  
原水爆禁止宗教者懇話会に加  
盟することを決定。高階会長  
をその代表委員として推薦す  
ることを承認。

なお、当日の出席者は  
渡辺真海、岩野真雄、神田尚順、  
太田淳昭、木全大孝、三原信一、

安藤寿雄、重永 潜、蒲池 繁、  
増永雲鳳、中山理々、摩尼清之、  
永倉唯嘉、竹村教智、前田宥昶、  
衣笠興道、田丸道忍、小川幽慎、  
木船全能、西沢浩仙、千々和宝天  
の各師であつた。

## 財団法人全日本仏教会 昭和三十三年度事業計画案

- 一、加盟相団相互の連絡、提携お  
よび親睦のための事業
- ① 理事会、常務理事会、評議員  
会の開催
- ② 全国各宗々務総長の会議の開  
催（宗教法人法、墓地問題、  
農地補償問題、新興宗教問題  
等）
- ③ 全国都道府県仏教会長会議の  
開催
- ④ 加盟仏教諸団体（宗派、都道  
府県仏教会を除く）代表者会  
議の開催
- ⑤ 総務委員会、墓地問題特別委  
員会、解放農地補償問題特別  
委員会の開催
- ⑥ 全仏通信の発行
- ⑦ その他
- 二、仏教文化運動の総合的企画お  
よびそのための事業
- ① 教化教学委員会の開催
- ② 花まつり月間の制定並びに実  
施
- ③ 成道会、涅槃会の集会の開催
- ④ 中央及び地方における講習会  
の開催

- ⑤ 中央および地方における講演  
会の開催
- ⑥ パンフレット等の印刷物の作  
成配布
- ⑦ 墨蹟展、その他各種展覧会等  
の開催
- ⑧ その他

## 三、諸官庁および関係諸団体との 連絡

- ① 主務官庁並びに関係諸官庁と  
の適時連絡
- ② 日本宗教連盟との連絡
- ③ 其の他関係諸団体との連絡  
その他
- ④ 各種仏教運動の實踐および育  
成のための事業
- ① 才六回全日本仏教徒会議浅草  
寺東京大会の開催  
六月十四、五、六日の二泊三  
日に亘り行う
- ② 組織委員会の開催
- ③ 地方仏教徒会議の開催
- ④ 全国都道府県仏教会、仏教婦  
人会、仏教青年会等の育成、  
連絡
- ⑤ その他

- ⑥ ブラジル移民五十年祭へ代表  
の派遣とブラジル移民及び開  
教についての方策の樹立
- ⑦ 才五回世界仏教徒会議タイ大  
会へ代表の派遣
- ⑧ ウェーサカ祭の開催
- ⑨ 在日仏教圏大公使及び仏教留  
学生との連絡
- ⑩ 来日仏教使節の接待
- ⑪ 中国に於ける邦人遺骨の収集  
についての準備
- ⑫ 海外宗教施設返還運動の促進
- ⑬ 国際委員会の開催
- ⑭ その他

## 六、才五回東大寺大会における各 決議事項の実施

- ① 全日仏二月の常務理事会は、去  
る二十一日午後一時より開かれ、  
左記事項について協議した。
- ② 才六回全日本仏教徒会議の件  
ブラジル移民五十年祭代表派  
遣の件
- ③ 京都に建立予定のビルマ・パ  
ゴダに関する件
- ④ セイロン水害救援に関する件

## 常務理事会開かる

ハンガリヤの重患へ  
薬送る  
ハンガリヤ仏教会長のアーネス  
トヘテニイ氏からブタペスト市に  
重症の患者がいるので是非日本製  
のザルコマイシンを送つてくれと  
云う依頼が全日仏にあつたので、  
全日仏では早速ザルコマイシン  
一箱五ヶ入りを航空便で送付し  
併せて同患者の全快を念する旨高  
階会長名で打電した。

# 新年度に万全の体勢

## 全国宗務総長 西日本府県仏教会長

### 会同開かる

全日仏新年度の諸計画の基礎となる加盟各宗団の意向を総合的に聞き且全日仏当局との意志の交流を計るといふ重要使命をもつ恒例の全国宗務総長会同は去る二月一日午後一時より関西事務局の在る京都知恩院大広間に於て開かれた。

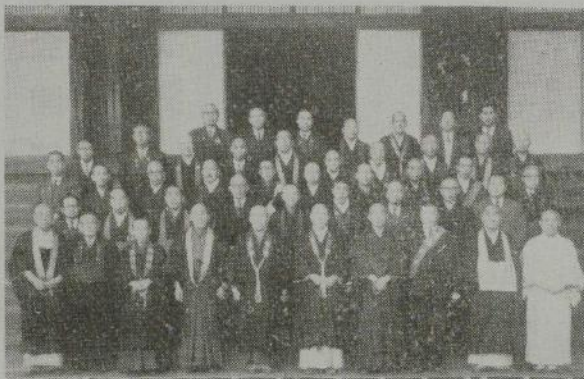
定刻より約三〇分遅れて本別所部長の司会により先づ渡辺理事長次いで太田事務総長挨拶を行う。この時岸知恩院門主執事長以下を随えて臨席され、黒衣姿にて末席より静かに山主としての挨拶を行う。静寂にして尊い一幕であった。

やがて司会者一同にはかりて座長推挙を理事長に一任、理事長続いて立ち干々和執事長を座長として推挙、座長着席して左の順序により議事に入る。

- 一、昭和三十三年事業計画及び事務運営に関する件
- 二、才六回全日本仏教徒会議開催の件
- 三、墓地及び解放農地補償問題について
- 四、その他

当局説明に総務、組織、国際各局長之に当り次いで一般質問に入る。質問は主として農地補償問題、宗教法人法改正問題、全日仏予算の基本的事項等に付夫々熱心に提出された。之に対して当局又親切丁寧に各所管局長より説明するなど、和やかな内にも極めて

緊張した会議が午後四時頃まで続けられた。会議終了後本堂前で一同記念撮影を行い、その後懇親会を行つて



午後五時過ぎ散会した。本会議の結果特に注目すべき事は三十三年からの負担金の算出基準の改正について万場一致承認され、今後の活潑な活動への協力が約されたことである。

## 西日本各府県仏教会長会同

西日本各府県仏教会長会同は、全国宗務総長会同と同日午後三時より知恩院別間に於て左記出席者と当局側とが立合の上高橋組織部

長司会で開会された。先づ栗本局長挨拶と共に左記各項に付報告と提案を行う。之に対して各出席者より夫々活潑な質問が行われた。続いて渡辺理事長、太田総長、佐瀬、石川局長及び関西事務局伊藤部長等出席し夫々挨拶及び担当事項に関して説明を行う。各代表亦之に對し夫々質問を展開された。

- 1. 全日仏の組織強化の方策とその予算に就て
- 2. 地方組織の現況と将来の見透しに就て
- 3. 全日仏幹部特に宗団代表者の地方組織強化に対する見解に就て
- 4. その他

会議途中各宗総長と共に記念撮影を行い、終了后引続いて協議懇談を行い、夫々本部並びに関西事務局との連絡を緊密化すると共に夫々の組織強化に更に一層の努力を尽すことを誓い合つて散会した。

## 当日の出席者(到着順)

### 総長会同

- 福村英祐(華嚴) 間中定泉(聖徳) 伊藤藤道(臨濟)
- 塚原徳広(和宗) 田丸道忍(西)
- 矢野康州(南禅) 五十嵐準良(禅林) 森田桂誠(融通念仏) 仲井義照(木辺) 和田教演(西山) 柳生昌泉(妙見) 吉永日洋(顯木) 寺内泰徹(本門) 村上恭学(陣門)
- 中村弘道(黄檗) 横井鶴洲(天竜) 衣笠興道(妙心) 奥田日孝(日蓮)
- 渡辺真海(浄土) 竹村教智(智山) 木村智広(新義) 前田有規(高野) 大原最後(御室) 森岡善晁(泉涌)

千々和宝天(浄土本) 菊地参務(大派) 西沢浩仙(曹洞) 神原玄祐(天台) 等

## 府県仏教会長会同

- 狭川明俊(代 奈良) 能登芳隆(愛知) 小川幽慎(京都) 山根龍信(鳥取) 宇治田貞亮(和歌山) 佐藤寛雄、小西顕竜(兵庫)
- 本部側渡辺理事長、太田総長、佐瀬、栗本、石川局長、伊藤、高橋別所部長

## 山梨県仏再建軌道にのる

### 十日甲府で準備会

地方仏教会組織強化のため妨ぎかけていた全日仏では山梨県仏と緊密なる連繋のもと、去る二月十日午前十時より甲府市県立図書館隣接の山梨教育事務所で「県仏再建協議会」が開かれた。

出席者は旧会長の塩田義遜氏(日蓮)をはじめ曹洞、臨濟、日蓮、浄土、本派、大派等の各宗代表者約十六名で、先づ塩田氏司会をやり乍ら、

## 1. 全国府県仏教会の現況全日仏の使命

### 2. 県仏再建の具体的方途

各項に分けて本部高橋部長より大略説明の後懇談に移り1.2.各項に付仲々突込んだ質問もあつたが極めて和気あいあいの裡に懇談が続けられ大略左の様な結論を得て散会した。

一、山梨県仏再建には全員一致異議なく賛成

二、再発足は来る三月彼岸前後としそれまでに各宗代表者をもつて再建準備会を正式に結成し全県運動にまでもち込む  
尚県内寺院数は曹洞の五二〇余

ヶ寺を筆頭に約一六〇ヶ寺ある由。

## 出席者名

- 塩田義遜、森 大器、遠山正劍、石島研学、吉田鼎三、大森弘道、雨宮孝文、須田孝義、遠藤是雄、五味義幹、海野 泰、千野惠深、小関隆雄氏等

## 原水爆禁止署名進む

### 「宗教者懇話会」に参加

去る十二月日本宗教者の世界平和実現の悲願をこめて、国連に対する原水爆禁止の訴えが発表され高階会長、増田日蓮宗管長も発起人として署名したが(前号既報)全日仏を通じて依頼された署名運動が進み、各宗派宗務所、地区仏教会、諸団体各寺院等多数から署名簿が送られて来ている。

この署名運動を通じて、原水爆禁止宗教者懇話会が二月二十一日に結成され、原水爆禁止、軍備撤廃の宗教者の祈念を実現するため宗教者として意志の交換をはかり可能なかきりて協力して活動することになった。

全日仏では昨年の原水爆禁止世界大会に正式に参加して以来、全日本仏教徒会議の決議の線に則つてこの運動に協力してきたが、去る一月二十四日開催の理事会において、この懇話会に正式委員として、高階会長を推して、協力することを決定した。

なお、二十一日の原水爆禁止宗教者懇話会発会式には仏教、キリスト教、新宗教等各界の代表百名余が出席し、今後の協力を誓ひあつた。

# 多面的な組織活動の集約を

## 才一回組織委員会開かる

全日仏は、昨年財団法人として  
の再発足に際して、組織強化を中  
心目標の一つとして掲げたが、こ  
の問題を専門に考究する組織委員  
会の才一回会合が去る一月二十八  
日午前十一時より事務総局におい  
て開催された。

委員会の討議は、まず組織の対  
象をどこにおくべきか、寺院を地  
域ごとに組織した仏教会との連繫  
の強化、信徒をも含めた地域組織  
結成の重要性、会社、工場等の職  
域での仏教研究会の組織化等につ  
いて行われた。

そして、これらのことは、それ  
ぞれ重要な意味があることが認め  
られたが、ただ一般的にこのよう  
な活動を進めるのではなく、具体  
的に来る六月の才六回全日仏教徒  
会議へ向けて、それへの参加とい  
う形で、この組織化を集約して行  
くべきことが確認された。

しかし、これらの対象を實際に  
組織して行くためには、どうして  
も全日仏が地域の仏教会、更には  
一般仏教徒にとつて身近かのも、  
あるは魅力あることが必要であ  
り、そのような意味で全日仏の事  
業について充分検討を加える必要  
が力説された。

担当の栗本組織局長は、これら  
の意見に敬意を表し僧俗一体の全  
一態勢実現は全日仏の一大目標で  
あるから、この推進に努力すると  
の決意を述べ、同時に、今後組織  
上の様々な問題についての協力を  
要請した。

なお、未組織の府県仏教会の場

合、暫定的に市仏教会単位での連  
絡をとり、速やかに府県仏教会単  
位の組織結成をすゝめるよう、全  
日仏が積極的に乗出すことの必要  
が確認された。

ちなみに当日の出席委員は、  
長岡慶信、常光浩然、藤本潮温、  
木船全龍、米谷 健、木村秀定、  
櫻井栄章、山本 久、岩野真雄、  
猪俣興一、安藤裕之、小松雄道、  
船口暉子の各氏であつた。

この委員会は木船全龍氏を委員  
長に選び今後も、これらの問題に  
ついて更に具体的な検討を続けて  
行くこととして、午後二時散会し  
た。

### 才六回大会について

#### 討議テーマを研究

##### 教学教化委員会

二月十七日午前十時からの教学  
教化委員会は、二十名余の委員参  
加のもとにひらかれた。会は、久  
保田正文氏を座長に推して、主  
に当面する才六回全国大会に関し  
てその内容や運営について意見を交  
換した。

こゝでは、在来の大会がややも  
すると単なる決議倒れになつてし  
まう危険や、討議の不十分さなど  
についての反省や批判が出され、  
これを克服する一方法として、在  
来のように漠然と参加者から議案  
を募る方式を修正して、限定した  
テーマについての提案を募る方式  
はどうかとの問題が事務局より提  
起され、これについての討論が進  
められた。

委員会は概ね次の三つのテーマ  
に關して議案を募ることに落着い  
た。

- (1) 仏教と科学（社会生活をも含  
めて）
- (2) 全一仏教をどう進めるか
- (3) 仏教徒の国際親善交流を如何  
に進めるか

この、それぞれについて各委員  
より意見が出されたが、教学委員  
会としては、右三テーマを一応の  
案とし、他の各専門委員会との間  
で調整の上最終案を確定するとの  
結論に達した。

また、この大会の折、仏教に關  
する討論会或は講演会等を開催し  
て、広く一般への働きかけをする  
必要が説かれたが、討論会の場合  
は、これを公開の放送討論会（例  
えばNHKの企画に持込む）とす  
るのも意味があるとし、これの具  
体化に關しては事務局が放送局と  
の交渉に當ることとなつた。

なお、当日の出席者は次の各氏  
であつた。

久保田正文、西義雄、結城令嗣、  
川田聖見、伊藤亮夫、岩野真雄、  
友松謙道、石橋益思、坂本幸男、  
深井忠龍、塩入亮達、北村大栄、  
権藤円立、長岡慶信、自見直、峯  
岸応哉、壬生台舜、堤敏郎の各氏

### 常に社会問題に

#### 具体的な関心を

##### 社会平和委員会

才一回社会、平和委員会は、二  
月十八日午前十時より開かれ、前  
日の教学、教化委員会と同様に、  
才六回全国大会についての本委員  
会としての意見をまとめた。

会合は、各委員自己紹介のあと  
委員長並に常任委員を選出したが  
委員長に山本洋一氏、常任委員に  
増永盛鳳、壬生照順、狩野獲麟、

森 芳俊、三谷会祥、赤松常子の  
各氏が選ばれた。

このあと、事務局よりの報告に  
ついで討議に入つたが、前日の  
教学、教化委として選んだ、大会  
討議のテーマについては、ほどこ  
れを諒承したが、特に、平和問題  
青少年の宗教教育問題、社会事業  
問題等について具体的に取り上げ  
られるべきことが強調された。

即ち平和問題については、原水  
爆禁止を何回決議しても、一向に  
これが実現しない現実を、われ  
／＼は見つめなければならぬ。  
真にこれを禁止するためには、具  
体的な対策を仏教徒として考えね  
ばならない。例えば、仏教は本来  
仏性の上に立つた話し合いの精神  
なのだから、仏教徒として「米ソ  
両陣営は須らく話し合え」とい  
うようなこと、或は、現代において  
仏教の影響下にある偉大な指導者  
ホールに対してもつと積極的に働  
きかけるというように進まねばな  
らないことなどが、指摘がなされ

才一回 国際委員会開かる

盛沢山の問題を討議

全日仏本年度初の国際委員会並  
にブラジルより日本よりの仏教代  
表招聘、ブラジル邦人の觀光団の  
日本招聘等について目下米日中の  
辻本昇氏（ブラジル仏教徒協議会  
主幹）の歓迎会を一月三十日午後  
二時半より東京銀座四丁目グ  
ル宝来で開催した。三浦依文につ  
いで石川局長が挨拶し、昭和三十三年  
度の国際局の事業計画案につい

て説明が行われ阿部竜伝氏を座長  
に選んで、委員長に伊藤述史氏、  
副委員長に阿部竜伝、赤松常子、  
雲藤義道、木村日記の四氏を互選  
した。ついで、セイロンの水害に  
対する、救援募金運動を二月八日  
に都内一斉に挙行する旨報告があ  
つた。終つて福島弘委員から釈尊  
正法会問題につき詳細なる報告が  
あり辻本昇氏の「ブラジルの開教  
について」の語及び辻本氏の歓迎  
会に移り五時半頃散会した。当日  
は伊藤委員長、阿部副委員長、友  
松円諦氏等を初め二十余名が出席  
盛会であつた。

た。

また現代青少年の宗教に対する  
無関心は、将来を恐れさせる問題  
で、この青少年に対する情操教育  
を真剣に考えるべきこと、或は、  
寺院が例えば里親になるとい  
う身近で簡単なことから社会事  
業を行うべきこと、などが強調さ  
れた。

委員会は、このほか様々な社会問  
題に対して仏教徒は常に関心をも  
つべきであり、これへの無関心が  
やがて仏教に対する一般世人の無  
関心乃至無視を招くものであると  
して、今後、この委員会を活発に運  
用すべきことを確認して、午後二  
時閉会した。

なお、当日の出席者は次の通り  
山本洋一、増永盛鳳、浜田本悠、  
壬生照順、狩野獲麟、小松雄道、  
羽場慈温、田中車一郎、中濃教篤  
森 芳俊、丸井玄信、田中法善、  
岩野真雄、長岡慶信、常光浩然、  
丸山行遠、赤松常子代の各氏

て説明が行われ阿部竜伝氏を座長  
に選んで、委員長に伊藤述史氏、  
副委員長に阿部竜伝、赤松常子、  
雲藤義道、木村日記の四氏を互選  
した。ついで、セイロンの水害に  
対する、救援募金運動を二月八日  
に都内一斉に挙行する旨報告があ  
つた。終つて福島弘委員から釈尊  
正法会問題につき詳細なる報告が  
あり辻本昇氏の「ブラジルの開教  
について」の語及び辻本氏の歓迎  
会に移り五時半頃散会した。当日  
は伊藤委員長、阿部副委員長、友  
松円諦氏等を初め二十余名が出席  
盛会であつた。

# セイロン大水害の救援運動 仏教徒の手で展開さる

印度洋の真珠といわれ、戦後特  
にわが仏教徒と交流が盛んになつ  
た仏教国セイロンでは、不幸にも  
昨年未以来東北季節風による豪雨  
が数日間もつづき、旧ろう二十  
八日頃から同国北部、中部、東部  
諸地方の河川沼沢が悉く氾濫し、  
セイロン国史上未曾有といわれる  
大洪水となつた。在日セイロン大  
使館からの情報によると、被害は  
特にヌラダブラ、ポロナルワを  
始め、ドテイルカルワ、トリンコ  
マリ港附近等、殆んど全土に亘つ  
ており、約三十万の住民が家を流  
され(セイロン国全人口は八百万)  
死者三百人を数え、其の損害は実  
に、五億五千万ルピー(那働四百  
十数億円)に上るといわれる。  
インドを始めとして、米、英、ソ  
中華人民共和国、オーストラリヤ  
等は、いち早く救援の手をさしの  
べており、わが国政府も一万ドル  
(二百六十万円)相当の衣類建築  
資材、食料、医薬品等を取り急ぎ  
贈ることに決定した。

全日仏では、同じ仏陀の教えを  
信ずる者として、この親しいアジ  
アの同胞の災害を黙視すべきでは  
ないとして、早速常務理事会の決  
定を径て対策委員会を設け、早急  
のこととして、東京仏教団、仏教主  
義学校連盟、仏婦、在京各宗務所  
等をはじめ加盟諸団体の協力を得  
て、去る二月一日より十日まで、  
東京地区を中心に街頭募金その他  
の方法で救援運動を展開した。  
この結果、各方面の絶大な協力  
により、別記のごとき成果を得た  
ので、去る二月十五日釈尊涅槃會

をトして、増田副会長よりセイロ  
ン大使フォンセカ氏を通じて蒐集  
された金品を贈呈した。  
なお、セイロン大使からは全日仏  
会長宛に次の如き礼状が寄せられ  
ている。  
「会長宛下、本日全日本仏教団が  
催した公式の式典において、私は



街頭で募金中の東京仏教団

セイロン国首相バンダラナイケ氏  
宛の貴殿よりの書面と、セイロン  
水害救援基金のための贈与金品と  
して仏教団の会員の方々によつて  
集められた八十万円の小切手と、  
タオル九二三六本、衣類九〇八点  
石鹸および粉乳等一七三点を含む  
包荷を手渡されました。私は今日  
貴殿よりの書面をセイロン首相へ  
送りましたが、再び首相よりの回  
答があり次才貴殿へ御回示申上げ  
ます。

同時に私はセイロン国大使とし  
て、セイロンの幾多の水害被害者  
に代つて、貴殿はじめ、全日本仏  
教団々員諸氏、その他この基金募

集に尽力された方々の御苦勞に対  
して衷心より感謝の意を表明いた  
す次第であります。私はこの種の  
貴方がたの御厚情あふるる御行為  
は、貴国とセイロンとの親愛の度  
を一層増すことは勿論、貴国とセ  
イロン仏教徒との強固なキズナを  
結び合うことに役立つたというこ  
とを疑いなく断言できると思いま  
す。」

## セイロン大水害救援募金

### 感謝録

- 千代田学園 10,000-
- 田中忠一 1,000-
- 岩場清八 5,000-
- 広瀬すみ子 11,000-
- 上野学園 15,000-
- 神田寺友松円諦 3,500-
- 大谷大学 3,000-
- 龍谷大学 3,000-
- 秋川仏教団 3,000-
- 聖和学園 13,000-
- 秋田市仏教団 3,000-
- 宜真学園 15,000-
- 本所仏教団 11,000-
- 浅草本願寺徳風幼稚園 3,000-
- 浅草高等美容学校 11,000-
- ヤングイースト社 1,000-
- 城東仏教団 3,000-
- 四谷仏教団 4,500-
- 大田仏教団 11,000-
- 渋谷仏教団 3,000-
- 大崎仏教団 6,000-
- 品川仏教団 8,000-
- 大井仏教団 3,000-
- 荏原仏教団 3,000-
- 上宮高等学校 15,000-
- 梅檀川仏教団 6,000-
- 多摩川仏教団 11,000-
- 大本山総持寺 10,000-
- 滝ノ川仏教団 10,000-
- 芝仏教団 35,000-

- 赤坂仏教団 6,800-
- 向島仏教団 5,900-
- 日本仏教鑽仰會 5,800-
- 孝道教団本部 25,000-
- 尼僧法団 15,150-
- 玉川仏教団 9,600-
- 日本山妙法寺 10,700-
- 萬節仏教団 10,000-
- 浅草仏教団 18,500-
- 牛込仏教団 6,000-
- 永井繁一 300-
- 下谷仏教団 15,100-
- 本郷仏教団 10,000-
- 世田谷仏教団 5,000-
- 成田山新勝寺 11,000-
- 立正大学 11,000-
- 赤松常子 1,000-
- 小石川仏教団 25,000-
- 王子仏教団 5,000-
- 深川仏教団 15,000-
- 府中市仏教団 2,000-
- 板橋仏教団 3,000-
- 駒沢大学 10,000-
- 鶴見女子学園 30,000-
- 曹洞宗々議會議員一同 6,100-
- 曹洞宗々務庁役職員一同 1,800-
- 群馬県新田高校 1,000-
- 立正学園 16,400-
- 世田谷高等学校 10,000-
- 八王子仏教団 8,000-
- 足立区仏教団 7,000-
- 目黒仏教団 10,500-
- 荒川仏教団 7,300-
- 立正高校 9,100-
- 練馬仏教団 14,800-
- 全仏本部街頭募金 5,500-
- 日本橋仏教団 2,500-
- 麻布仏教団 7,000-
- 華頂学園 17,700-
- 築地本願寺 5,000-
- 築橋仏教団 2,800-
- 浅草寺 31,800-
- 駒沢学園 10,400-
- 日蓮宗々務院 3,000-
- 筑紫女学園 25,000-

### 総計

一、金一〇、一、二六三円也

### 救援物品

- タオル 四、〇二八点
- 手拭 五、二〇八点
- 子供服等衣類 九〇八点
- 石鹸、粉乳等 一七三三点
- 計 一〇、三二七点

### セイロン水害救援募金

#### 決算書

- 一、募金総収入 一、金一〇、一、二六三円也
- 一、支 出 一、金八〇万円(才一次セイロン大使へ寄託分)二月十五日
- 一、金一〇万円也(才二次セイロン大使へ寄託分)二月二十四日)
- 一、金一一、二六三円(募金経費)

#### 内訳

交通、連絡、通信、印刷、ポス  
ター代(三、〇〇〇枚)のぼり、  
旗、募金箱等救援物資荷造費運搬  
代救援物資船賃等一切  
右の通り報告致します  
昭和三十三年二月十八日